

III. 日本型システムの情報特性と「日本病」

A. 平成の「日本病」症状

1. 経済分野

a. 平成不況

「バブル（1980-90年代初）」とその崩壊
不況・停滞の長期化
安定社会、格差拡大

b. 需要面

消費停滞（心理的、将来不安）
投資不振（バブルの後始末、新規起業の不振）
デフレ進行

c. 生産部門

安定生産（従来方式の継続）
海外からの競争圧力
金融の停滞（不良資産の残存）
低効率分野の「整理」が停滞
労働市場の硬直化

2. 政治・行政分野

a. 全体としての「機能不全」

社会全体のために必要な「決定」ができない
「抵抗勢力」（広義）
各分野・部門の自己保全・権限維持という誘因

b. 旧来システムの欠陥

公共事業型支出
過度な規制（多数）が残存
金融、教育、医療、通信・放送・電波等

c. 「システム改革」メカニズムの不在

憲法改正手段の長期欠落
国会・自治体議会が弱体（行政の支配）

3. 社会・生活・文化

a. **文化は発展**
人々のエネルギーの向けどころ(？)

b. **社会・生活**
少子化社会・人口減少
女性差別

4. **「変革」のはじまり(？)**

a. **自然的「変革」の例**
終身雇用の漸次崩壊
会計制度改革、金融ビッグバン(外圧)

b. **意識的・計画的「変革」の例**
司法改革
規制緩和(一部のみ)

5. **社会全体のための情報手段**

広域コミュニケーション
「マスコミ(テレビ、新聞)」に大部分を依存
情報不足
詳細情報、地域情報
一部の情報に対する反応
企業不祥事(雪印乳業、東京電力他)
災害・事故(O157、SARS 他)

B. 社会・経済システム「変革」の歴史と情報特性

1. **幕末と明治維新**

a. **幕末時の問題**
固定的幕藩体制、前例の支配と腐敗
硬直した社会制度、身分制度(世襲、クローズド型)
経済制度(株仲間、組合、クローズド型)
家内工業、手工業、職人型技術(習うより慣れろ)
・**情報特性**
前例・繰返し・慣習と「暗黙の強制」
ケースごとの音声言語による伝達・命令
ほとんどすべて非定型情報

幕藩体制：平和な時代

固定体制 前例の支配

形式だけまねればよい

内容は問題にならない 腐敗

身分制度

士農工商（四民）

支配階級 役人（現在の官僚、事務官）に続く

固定社会：従来のやり方を守る（社会の進歩を否定）

実際：経済成長 きわめてゆるやか 商人が豊かになる

武士が貧しくなる <矛盾>

江戸時代の組織のガバナンス

前例とくり返し（音声情報による指示に依存とくり返しによる習熟）

適合状態

情報の節約（少量の情報で足りる）

* 紙と筆、和紙：習得に長時間、技術を要する

コピー作成は手書きで写す必要

書き役（右筆）、専門職

文書情報のための技術が不十分であった

b. 明治・大正期の発展

近代国家体制、四民平等（オープン型）

普通教育の普及、競争的人材登用（オープン型）

国家組織、法治体制（オープン型）

富国強兵、軍事国家、植民地を求める、軍事偏重の重工業

・情報特性

「読み書き能力」の一般的普及

団体行動能力

近代国家の最小限の法令（国家組織、個人財産）

ただし基本的人権や言論の自由はなし

2. 第二次大戦と戦後経済成長

a. なぜ日本は（失敗が予測されたのに）第二次大戦にとび込んだのか（？）

植民地獲得による膨張

軍事政権と閉鎖的集団

批判を許さない国家一体主義（神国思想）

グループ一体型行動

外の世界の情報を拒否し、内にこもる（クローズド型）

- ・ 歴史：第2次大戦まで日本人最大の失敗
- ・ 横ならび型社会（音声）満場一致の原理

・ 情報特性

軍部支配を阻止する法的メカニズムなし

（合法的支配であった）

軍部組織自体は「階層型合議体」で運行

リーダーの不在（リーダー選出ルール・権限規定なし、名目リーダーを使用）

意志決定能力の不足（決定手順・ルールの不在）

少数意見の表明が難しい（横並びの傾向）

b. 戦後の経済成長

文化国家・「経済国家」への目標切り換え

中高等教育の普及、競争的人材登用（オープン型）

製造業の発展

リーン生産技術（高品質の製品）

輸出重視と貿易による経済膨張

戦後日本の発展と日本型組織と情報

経済的どん底 生きることに関心

心理的どん底 （スローガン） 文化国家（目標）

経済国家（結果）

働く（衣食住） 急速な経済成長（1960～1980年代）

（世界一のスピード） 途上国 先進国レベル

・ 情報特性

組織運営の基本は戦前体制（1940年体制）を踏襲

音声言語による伝達重視（文書による伝達の軽視）

「ものづくり経済」、「キャッチアップ経済」には適合（小グループ単位の協力）

改善の重視、創造は不振

- 戦後日本の経済成長
製造業の発展：安くて良い製品） 段階的（産業）
サービス業：良好だが高いサービス
- 戦前
絹織物：安物の家内工業製品
“Made in Japan”（戦前）すぐわかる
軍需産業は発展
- 1950年代
繊維産業、化学繊維、輸出の主体 造船業 輸出
- 1960年代
鉄鋼業：鉄鋼石、石炭の輸入、広範な需要
加工産業：板、パルプ、柱 多段階、多様 コンピュータ制御
国内需要を充足、輸出力備える（外貨を稼ぐ）、高度製品
（例）現在でも日本のみ生産、ボールベアリング（ビデオ用）
- 1970年代
家電製品、バイク（テレビ、冷蔵庫、エアコン、その他多様な）
空洞化、国内生産、世界の市場を制服
- 1980年代
自動車、半導体（デザインがよい、安い、壊れない）
国内需要をみたく輸出・・・現在まで存続